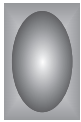


INFORMATION



「第8回若手研究者のための生命科学セミナー」

ストレスから精神疾患に迫る—ストレスが脳を変える—

日 時：平成17年10月14日（金）13：00～
19：30

会 場：海運クラブ（東京都千代田区平河町2-
6-4 海運ビル tel.03-3264-1825）

主 催：若手研究者のための生命科学セミナー組
織委員会、

（財）万有生命科学振興国際交流財団

協 賛：日本生理学会 他

講演内容：

1. Opening Remarks, ストレスから精神疾患に迫る（九州大・医）神庭重信
2. 幼少期ストレスと不安障害（北海道大・医）吉岡充弘
3. 脳の発達障害 ADHDはどこまで分かったのか（東北大・医）曾良一郎
4. 脳の発達障害としての統合失調症（東京医科

歯科大・医歯学総合）西川 徹

5. ストレスとうつ病の発症脆弱性（群馬大・医）三國雅彦

6. 遺伝子から探る新規抗うつ薬の開発（国立精神・神経センター）山田光彦

参加費：無料

申込先：ホームページよりお申込みください

<http://www.banyu-zaidan.or.jp/symp/index.html>

連絡先：

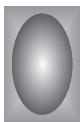
〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3

（財）万有生命科学振興国際交流財団

生命科学セミナー事務局（担当：吉田佳奈，岩田玲子）

E-mail：symposium@banyu-zaidan.or.jp

Tel：(03) 5203-8190, Fax：(03) 5203-8191



日本生理学会奨励賞の応募について

日本生理学会では、顕著な研究業績を有するとともに、将来、生理学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として日本生理学会奨励賞を平成11年度に設立致しました。下記の規定などをご覧の上、積極的に応募されることを希望します。なお、書類提出の締め切りは毎年10月末日ですので、ご注意ください。

日本生理学会奨励賞規定

1. (目的)

日本生理学会は、顕著な研究業績を有すると

ともに、将来生理学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として日本生理学会奨励賞（以下、奨励賞という）を設ける。

2. (対象)

3年以上の正会員歴を有する満37歳以下の日本生理学会の会員を対象とする。

3. (選考)

1) 応募者の中から毎年若干名を選考する。

2) 奨励賞の選考は奨励賞選考委員会が行う。

3) 選考委員には、直前に文部省学術審議会専

門委員（日本生理学会から第一段審査委員候補者として推薦された科学研究費分科会委員）としての任期を終えた日本生理学会会員があたる。任期は2年とする。

- 4) 選考委員長は選考委員の互選により選出する。
 - 5) 選考実施の細目は申請件数、内容などに応じて選考委員会で検討する。
4. (表彰)
- 生理学会大会の総会の席上で受賞者を表彰し、賞状及び副賞を贈呈する。受賞者は日本生理学会大会において講演を行う。
5. (改正)
- 本規定の改廃は日本生理学会常任幹事会で行う。
- 本則は平成11年4月1日より施行するものとする。

日本生理学会奨励賞選考細則

1. (選考の対象)
- 奨励賞は個々の論文を対象とするものではない。申請者の研究実績、研究構想と発展性を評価して選考する。対象となる研究の主たる部分が日本国内で行われたものに限る。
2. (会員歴)
- 1) 学生会員であった期間は会員歴に含まれる。
 - 2) 会費の納入が無かった期間は含まれない。
3. (応募)
- 1) 応募者は申請書（所定の様式に従い、日本生理学会評議員による推薦のあるもの）、履歴書、主要業績リスト、申請課題に関する800字以内の抄録、申請課題に関連した論文の別冊（印刷中の論文については校正刷りの写し）各10部を日本生理学会奨励賞選考委員会に提出する。
 - 2) 応募者の年齢は当該年の12月末日のものとする。
 - 3) 公募の締切りは毎年10月末日とする。
4. (副賞の金額)
- 当分の間1件10万円とするが、状況により改訂することができる。

第6回（平成16年度）該当者なし

第5回日本生理学会奨励賞受賞者（平成15年度）

1. 高橋 倫子（生理学研究所 生体膜部門）
「インスリン開口放出機構の解析」

第4回日本生理学会奨励賞受賞者（平成14年度）

1. 小武海 公明（東京慈恵会医科大学 循環器内科）
「無傷心筋における収縮蛋白Ca感受性の評価と生理学的意義」
2. 吉村 由美子（名古屋大学環境医学研究所 視覚神経科学分野）
「大脳皮質一次視覚野における神経回路の情報処理特性と可塑性に関する研究」

第3回日本生理学会奨励賞受賞者（平成13年度）

1. 小林 章子（高知医科大学第二生理学）
「熱産生調節機構の解明」
2. 松下 正之（岡山大学大学院医歯学総合研究科細胞生理）
「蛋白質セラピー法による学習、記憶の分子機構の解明」

第2回日本生理学会奨励賞受賞者（平成12年度）

1. 磯村 宜和（東京都神経科学総合研究所 統合生理研究部門）
「大脳皮質錐体細胞の樹状突起におけるシナプス統合およびシナプス可塑性に関する研究」
2. 川田 徹（国立循環器病センター 循環動態機能部）
「循環調節のシステム解析と臨床研究への展開」
3. 増田 正雄（東京都老人総合研究所・臨床生理部門）
「中枢神経系による膵臓の機能調節機構研究」

第1回日本生理学会奨励賞受賞者（平成11年度）

1. 神谷 温之（群馬大・医・第2生理）

- 「海馬シナプス前終末の可塑性メカニズムに関する研究」
2. 佐藤 容子（東京医歯大大学院・認知行動医学・脳行動病態学）
「光学的計測法による中枢神経系の機能形成に関する研究」
 3. 飛田 秀樹（名古屋市大・医・第2生理）
「神経細胞移植による障害脳機能の再建」

4. 松井 広（東大大学院人文社会系心理学・博士課程）
「網膜における興奮性シナプス伝達：双極細胞と神経節細胞からの同時記録による解析」
5. 美津島 大（横浜市立大・医・第2生理）
「視床下部GABAニューロンによるGnRHニューロンの制御」

日本生理学会奨励賞申請書

平成 年 月 日

日本生理学会奨励賞
選考委員会委員長殿

申請者氏名：

生年月日：

日本生理学会会員番号：

所属・職：

申請課題：

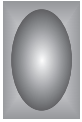
日本生理学会奨励賞に応募いたしたく、履歴書、主要業績リスト、申請課題に関する抄録、申請課題に関連した論文の別冊を添えて申請いたします。

署名

下記の理由により、申請者
推薦します。
推薦理由：

を日本生理学会奨励賞受賞者としてふさわしいものと考え

推薦者：所属・職・氏名



第14回日本バイオイメーキング学会学術集会

日本バイオイメーキング学会は、新しいイメーキング法の開発ならびにイメーキング法の生物学への応用を目的として、学術集会を行ってまいりました。本年は、第14回学術集会を下記の要領で開催いたします。

記

名称：第14回日本バイオイメーキング学会学術集会

主催：日本バイオイメーキング学会

会期：平成17年10月26日（水）～28日（金）

会場：東京大学農学部弥生講堂・一条ホール

（〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1）

大会長：田之倉 優（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

副大会長：山本 健二（国立国際医療センター研究所副所長）

菊地 和也（東京大学大学院薬学系研究科助教授）

【スケジュール】

10月26日（水）13：00～16：50

公開シンポジウム：「たんぱく質のかたちと病気」

10月27日（木）～28日（金）

特別講演：「水とイオンチャネルを中心とした構造生理学研究」

一般講演・ポスター

シンポジウムI～IV

<シンポジウム題目>

I「分子・オルガネラ・細胞イメーキング」

II「新規計測技術によるバイオイメーキング」

III「微細粒子製造・化工・操作技術とその生命科学への展開」

IV「タンパク質のバイオイメーキング」

詳細は大会ホームページをご覧ください <http://www.nih.go.jp/yoken/bioimaging/index-j.html>

【連絡先】

第14回日本バイオイメーキング学会大会長

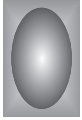
田之倉 優

〒113-8567 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻食品工学研究室

Tel：03-5841-5165 Fax：03-5841-8023

E-mail：ayi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp



日産科学振興財団 2005年(平成17年)度 「学術研究助成」の募集を開始

日産科学振興財団(理事長:カルロス・ゴーン)は、昨年度より「環境」・「自動車」・「教育」の3分野に重点化した助成を行ってまいりました。今年度は3分野の重点化に加え、研究助成対象を一層フォーカスした下記助成を行うことと致しました。ここでは、「学術研究助成」プログラムのみを記載致しますが、当財団の活動全体および申請方法の詳細につきましては、ホームページ(<http://www.nissan-zaidan.or.jp>)をご参照下さい。

■ 学術研究助成 募集要項概要

(1) 助成対象

(環境研究):

大気中のCO₂削減を目指した太陽エネルギーの有効利用に関する基礎研究で、特に ①人工光合成 ②有機太陽電池 ③樹木の光合成促進 に関する研究を重点課題とする。

(認知科学研究):

人と機械のインターフェース革新を目指した認知科学研究で、特に ①自動車運転者の知覚・認知・判断メカニズム ②幼児・子供の健全なコミュニケーション能力発達支援 に関する研究を重点課題とする。

(2) 助成要件:

- ・ポスドク・助手クラスの研究者が自ら計画した研究課題を自律的に推進する個人研究
- ・原則として申請研究課題については、科研費等公的研究助成および他民間財団からの研究助成を受領または予定がないこと

(3) 申請者の資格:

日本の大学など我が国の非営利の学術研究機関に所属(勤務)するポスドク、助手クラスの主として若手の研究者

(4) 助成金額: 1件あたり150万円程度

(5) 採択予定: 環境研究は、13件程度、認知科学研究は、7件程度

(6) 助成期間: 平成18年4月より 1年間

但し今回採択された助成者の中から、将来有望な発展が期待できる若干数の研究に限り、再応募・審査により、助成期間の延長と追加助成金の支給を行う予定

(7) 応募方法と締切: 8月16日(火)より受付開始、10月31日(月)締切

- ・電子メール応募と郵送のセット応募(FAX 応募は不可)
- ・財団ホームページに従って応募下さい

財団法人日産科学振興財団

URL: <http://www.nissan-zaidan.or.jp>

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9

TEL: 03-3543-5597 FAX: 03-3543-5598

お問い合わせ先 nsf@nissan-zaidan.or.jp